令和 8 年 11 月 24 日

アジア最大級の宇宙ビジネスイベント「NIHONBASHI SPACE WEEK 2026」に出展

～宇宙での実績を持つ「小型ハイパースペクトルカメラ」の最新研究や、学習用超小型人工衛星「EDIT」を用いた宇宙人材教育、地域産学官連携の取り組みを発信～

福井大学は、12 月 1 日～3 日に東京・日本橋エリアで開催されるアジア最大級の宇宙ビジネスイベント「NIHONBASHI SPACE WEEK 2026」の展示会（Exhibition）に出展します。

本展示では、これまでに人工衛星への搭載実績を持つ本学の「小型ハイパースペクトルカメラ」の最新研究をはじめ、学習用超小型人工衛星「EDIT」を活用した実践的な宇宙人材教育プログラム、さらに福井県内の産学官連携で推進している「ふくい宙（そら）クロスイノベーション」の取り組みについて広く紹介し、その取り組みや、本学が有する技術力と教育ノウハウを全国・世界に発信します。

記

日　時　　令和 8 年 12 月 1 日（火）13:00～17:00
12 月 2 日（水）9:30～17:30
12 月 3 日（木）9:30～17:00

場　所　　日本橋三井ホール（東京都中央区日本橋室町 2-2-1　COREDO 室町 1　5F）
（エントランス 4F）

ブース番号　　1-54

イベント URL　　https://www.crossu.org/spaceweek/

■ 出展の背景と目的

近年、衛星データの活用ニーズは環境計測、通信、防災など多岐にわたり、医学や情報工学など 異分野を組み合わせることで、社会課題に迅速に対応する新規事業の創出が期待されています。また、それを支える宇宙人材の育成、さらには全国各地のモノづくり技術と宇宙開発の融合が重要なテーマとなっています。

福井大学はこれまで、福井県や地域企業等と連携し、小型衛星用ハイパースペクトルカメラの開発や、実践的な宇宙人材教育活動において実績を重ねてきました。このたび、国内外の宇宙関連企業、スタートアップ、研究機関、投資家が一堂に会する「NIHONBASHI SPACE WEEK 2026」への出展を通じて、産学官連携の取り組みや本学が有する実証済みの技術力と教育ノウハウを全国・世界へ発信し、共同研究や事業共創のパートナーシップ構築を目指します。

■ 主な展示・紹介内容

1. 搭載実績を持つ「小型ハイパースペクトルカメラ」の最新研究

農業、環境モニタリング、防災など幅広い分野でのデータ活用が期待される「小型ハイパースペクトルカメラ」について、最新の研究成果を展示します。本学はすでに同カメラの宇宙実績を有しており、その技術的知見を基盤としながら、より高精細の画像取得やコンステレーション運用を見据えた研究開発の現状を紹介します。

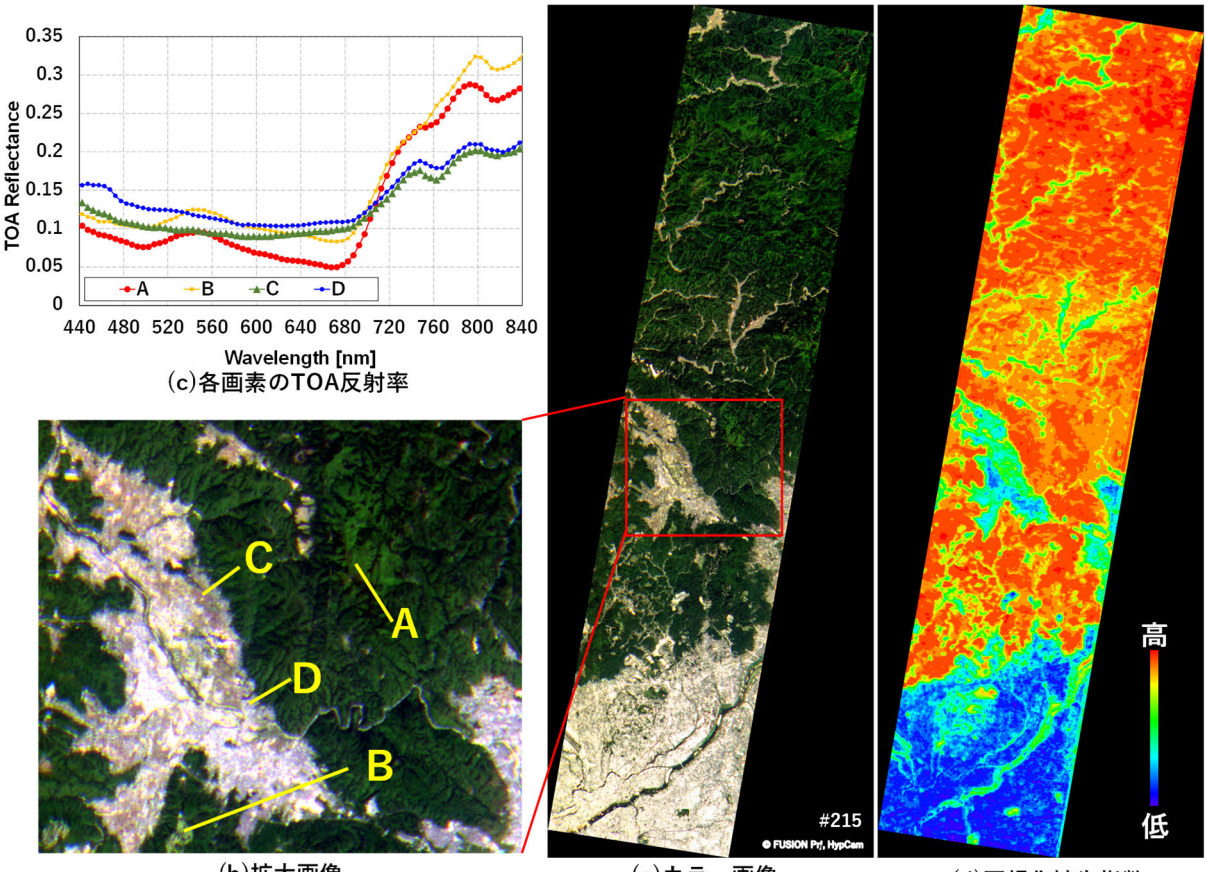
2. 学習用超小型人工衛星「EDIT」を活用した宇宙人材教育の取り組み

次世代の宇宙開発を担う人材育成の取り組みとして、学習用超小型人工衛星「EDIT」を用いた実践的な教育プログラムを紹介します。衛星の設計・開発から試験・運用までを体系的に学ぶことができる教育手法や、全国の教育機関・企業の人材育成にも応用可能なカリキュラム開発について解説します。

3. 地域産学官連携「ふくい宙クロスイノベーション」の推進

繊維・機械・眼鏡などの高度なモノづくり技術が集積する福井県の強みを生かし、地域の企業・自治体・教育機関と連携して宇宙分野への参入と新産業創出を目指す「ふくい宙クロスイノベーション」の取り組みを紹介します。衛星や機器の「開発～評価、運用、データ解析まで一気通貫」に行う地域発の宇宙産業エコシステム形成に向けた現在の活動状況を紹介します。





↑ハイパースペクトルカメラを搭載した小型人工衛星（ FUSION-1(3U CubeSat) ）の観測例

●ふくい宙クロスイノベーション推進拠点とは

福井大学は、福井県や県内企業と連携し、人工衛星の製造・利活用に関する技術開発や人材育成に取り組んできました。

これまで地域企業・自治体とともにつくりあげてきた“福井発の宇宙開発の取り組み”を、次の成長フェーズへと発展することを目指し、「宇宙関連技術」と地域の産業技術を融合し新たな研究・産業領域を創出する「ふくい宙（そら）クロスイノベーション推進拠点」の構築を目指します。本拠点では「地上の技術を宇宙へ。宇宙の成果を地上へ」をキーワードに、地域の課題解決と新たな産業の創出を目指します。

FUKUI SORA
CROSS INNOVATION
ふくい宙クロスイノベーション